

「当たり前」の大切さ

中原 衣麻梨

私は、小学生の頃からずっし給食センメニューの方々に感謝している。

日常生活での「食」の「当たり前」。でもその「当たり前」は、ほんどが給食センメニューの方々に教えるもつ。たようなものだ。

はしをもつにあたり、持ち方を細かくわしく教えてくれた。

今は、ふつうに当たり前にはしをもつこと

がどきもが、給食センメニューの方々に教えるもつ。たかう「食」を楽しむことが出来る。

給食が楽しんだ、と思える。

また、私は小学六年生の時、給食委員に入っていた。

単純に、給食委員に入ってみただけ。ほかにもいろいろが、今思えば、給食センメニューの方々に感謝を伝えたい。たのしみ。たのしみ。何か役にたつたか。たのしみ。たのしみ。委員会に入。たのしみ。五大栄養素ほど。

給食以外にも知るこゝができた。

げさをやったり、果会を開いたりして、友達や、その他の周りの人達に、「食」のさまでまはることを知ってもらえて、うれしかった。当時、何か社にござることはないかと考えていた私にとってもいい機会とあった。

「食」の楽しさを伝えてくれた給食センターの方々に毎日ととも感謝している。

今、コロナのえいさもあるが、以前よりさらに大変なことが多くは、にと思う。

だが、そんな中でも、一から献立を作成し給食を作って学校まで運んでくれる。そんな給食センターの方々が大好きだ、さらに感謝しなくてはならない。

日常生活の「当たり前」を、全において、感謝しなくてはならないことが、たくさんあるなと思つた。

心の底から「ありがとう」と思う。